

## VIII 麦をめぐる情勢について

ホクレン農業協同組合連合会



## 1. 令和5年産民間流通麦について

### (1) 生産概要

作付面積は、小麦132,300ha、二条大麦1,710ha、収穫量は小麦719,400トン、大麦6,170トンとなり、前年産と比較して小麦105,200トン増加、大麦270トン減少となりました。

#### 【北海道産麦類の作付面積と収穫量】

麦種	令和5年産		令和4年産	
	作付面積 (ha)	収穫量 (ト)	作付面積 (ha)	収穫量 (ト)
小麦	132,300	719,400	130,600	614,200
二条大麦	1,710	6,170	1,700	6,440
六条大麦	14	67	13	50
はだか麦	87	231	84	179

(資料：農林水産省 作物統計)

### (2) 入庫状況

令和5年産麦の入庫数量について、秋まき小麦は、契約数量を上回りましたが春まき小麦は下回り、小麦全体では契約数量を4%程度上回る数量となりました。

#### 【ホクレン取扱入庫数量】

銘柄	販売予定数量 (ト) ①	入庫数量 (ト) ②	対差 ②-①	対比 ②/①	1等麦比率
きたほなみ	456,158	480,326	24,168	105%	99.1%
北見95号	1,479	0	▲ 1,479	0%	0.0%
キタノカオリ	2,983	3,996	1,013	134%	100.0%
ゆめちから	78,648	80,809	2,161	103%	97.3%
つるきち	612	626	14	102%	100.0%
ハルユタカ	2,965	2,813	▲ 152	95%	95.6%
春よ恋	39,503	36,324	▲ 3,179	92%	97.7%
はるきらり	8,549	8,434	▲ 115	99%	100.0%
小麦計	590,897	613,328	22,431	104%	98.8%
大麦計	717	571	▲ 146	80%	8.9%

※ラウンドの関係上、合計値の端数が異なる場合があります。

### (3) 品質状況

品質について、前年産総じて高かったタンパク値は、令和5年産では概ね適正な数値となっております。また、主要銘柄におけるランク別比率については、概ねAランクとなっております。

#### 【小麦の4項目品質状況（加重平均値）：ホクレン扱い分】

銘柄	容積重 (g/l)		F.N. (sec.)		タンパク (%)		灰分 (%)	
	令和5年産	令和4年産	令和5年産	令和4年産	令和5年産	令和4年産	令和5年産	令和4年産
きたほなみ	857	852	410	413	10.8	12.1	1.38	1.46
キタノカオリ	864	857	428	411	12.8	13.6	1.68	1.72
ゆめちから	846	837	461	443	13.6	15.0	1.63	1.69
つるきち	854	837	543	451	13.8	14.1	1.62	1.76
ハルユタカ	859	849	426	385	12.6	13.3	1.63	1.73
春よ恋	850	848	434	413	12.9	13.0	1.67	1.69
はるきらり	865	853	399	387	12.6	12.7	1.63	1.70

#### 【主要銘柄のランク別比率：ホクレン扱い分】

銘柄	Aランク	Bランク	Cランク	Dランク
きたほなみ	99.9%	0.1%	0.0%	0.0%
ゆめちから	99.4%	0.6%	0.0%	0.0%
春よ恋	99.5%	0.1%	0.1%	0.2%
はるきらり	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

### (4) 販売状況

販売状況について、12月末時点においては、受渡数量、受渡進度ともに前年産を上回って推移しております。

#### 【民間流通麦の販売状況：令和5年12月末（ホクレン扱い分）】

		販売予定数量 (トン) ①	入庫数量 (トン) ②	比率 ②/①	12月末受渡数量 (トン) ③	進捗状況 ③/②	
北海道	小麦	5年産	590,897	613,328	103.8%	114,421	18.7%
		4年産	538,848	524,162	97.3%	74,907	14.3%
		差引 (5-4)	52,049	89,166	—	39,514	—
	大麦	5年産	717	571	79.6%	15	2.6%
		4年産	635	642	101.1%	0	0.0%
		差引 (5-4)	82	▲ 71	—	15	—

※ラウンドの関係上、合計値の端数が異なる場合があります。

(5) 価格の事後調整【小麦のみ】

令和5年産民間流通麦の価格の事後調整については、以下のとおりとなっております。

【令和5年産民間流通小麦主要銘柄の流通期別価格】

銘柄	指標価格	令和5年8月～	令和5年10月～	令和6年4月～
		令和5年9月流通 変動率：105.8%	令和6年3月流通 変動率：94.1%	令和6年9月流通 変動率：未定
きたほなみ	63,014	66,669	59,296	未定
ゆめちから	64,084	67,801	60,303	未定
春よ恋	86,051	91,042	80,974	未定
はるきらり	73,988	78,279	69,623	未定

※単位：円/㍏、税別

2. 令和6年産民間流通麦について

(1) 需給状況

① 全国（小麦）：全農+全集

令和6年産の民間流通麦については、令和5年産と比較して販売予定数量が13,524トン増加し、購入希望数量が29,502トン増加しました。需給状況については、95,407トンのミスマッチが生じております。

【民間流通小麦の販売予定数量および購入希望数量】

	①販売予定数量（㍏）			②購入希望数量（㍏）			①-②		
	R6年産	R5年産	R6-R5	R6年産	R5年産	R6-R5	R6年産	R5年産	R6-R5
北海道	633,410	638,594	▲ 5,184	571,866	540,709	31,157	61,544	97,885	▲ 36,341
府県	334,980	316,272	18,708	301,117	302,772	▲ 1,655	33,863	13,500	20,363
全国	968,390	954,866	13,524	872,983	843,481	29,502	95,407	111,385	▲ 15,978

② 北海道（小麦及び大麦）：ホクレン+北集

令和6年産北海道の民間流通麦需給状況については、販売予定数量633,410トンに対し購入希望数量571,866トン、差引が61,544トン発生しております。依然として販売予定数量が購入希望数量を上回るミスマッチの状態が続いているものの、銘柄別では「きたほなみ」「ゆめちから」において購入希望数量の増加もあり需給ギャップの改善が図られている一方、「はるきらり」は引き続き需給ギャップが大きい状況にあります。

【令和6年北海道産小麦における主要銘柄の販売予定数量および購入希望数量】

銘柄	販売予定数量（㍏） (A)	購入希望数量（㍏） (B)	差引 (A) - (B)	(参考) 令和5年産		
				販売予定数量（㍏） (A)	購入希望数量（㍏） (B)	差引 (A) - (B)
きたほなみ	467,053	447,514	19,539	476,582	432,027	44,555
ゆめちから	107,808	79,210	28,598	100,660	62,298	38,362
春よ恋	45,043	30,635	14,408	44,764	32,508	12,256
はるきらり	7,262	1,850	5,412	8,549	3,600	4,949
小麦全体	633,410	571,866	61,544	638,620	540,709	97,911

※小麦全体には、上述銘柄の他、キタノカオリ、つるまち、ハルユタカ等が含まれています。

## (2) 入札状況

令和6年産小麦の価格については、価格の事後調整の仕組みにより、前年産の指標価格に入札実施時点の変動率（令和5年9月時点の変動率105.8%）を乗じた価格を基準価格とし実施されました。

### ① 府県（全農+全集 北海道を除く）

小麦は、12県21銘柄合計64,710tを上場し、合計11,970tの不落札が発生しました。

### ② 北海道（ホクレン+北集）

小麦で、4銘柄183,480トンを上場、合計11,420トンの不落札が発生し、すべての上場銘柄において基準価格を下回る応札となりましたが、ホクレン分については、「きたほなみ」「ゆめちから」の秋まき2銘柄で全量落札となったうえ、落札価格についても基準価格対比で全国平均（98%）を上回りました。一方で、「春よ恋」「はるきらり」の春まき2銘柄では、不落札が発生し、「はるきらり」については、需要の獲得を目指して、再入札を実施いたしました。

#### 【銘柄別入札結果：ホクレン+北集】

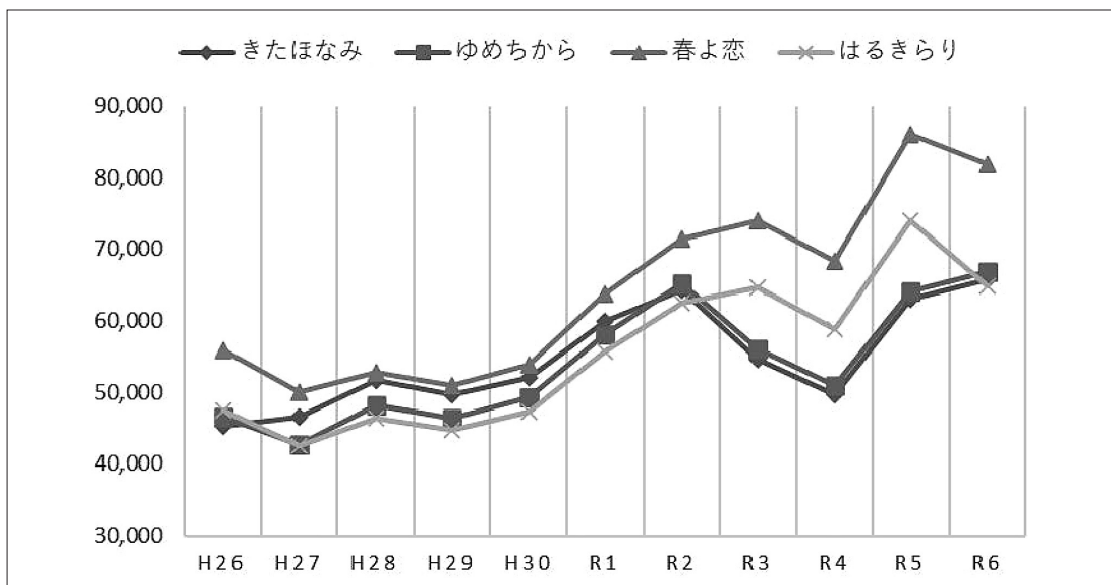
銘柄	上場数量 (ト)	落札数量 (ト)	落札残 (ト)	申込倍率	基準価格 (円) (A)	指標価格 (円) (B)	基準価格対比 (B) / (A)
きたほなみ	135,450	134,560	890	1.3	66,669	65,732	98.6%
ゆめちから	32,340	31,050	1,290	1.4	67,801	66,892	98.7%
春よ恋	13,510	5,000	8,510	0.4	91,042	81,946	90.0%
はるきらり	2,180	1,450	730	0.7	78,279	64,783	82.8%

#### 【北海道産民間流通麦の銘柄別指標価格推移】

銘柄	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
きたほなみ	45,291	46,543	51,635	49,751	51,989	59,956	64,313	54,698	49,742	63,014	65,732
ゆめちから	46,587	42,747	48,197	46,443	49,248	58,127	65,219	55,995	50,966	64,084	66,892
春よ恋	55,884	50,107	52,815	50,892	53,966	63,696	71,467	73,963	68,431	86,051	81,946
はるきらり	(47,424)	42,504	46,377	44,688	47,227	55,742	62,542	64,737	58,846	73,988	64,783

※単位：円/ト、税別。

※（ ）内の価格は、非上場のため、入札結果を踏まえ、実需者との協議により設定された相対価格。



### 3. 輸入麦の情勢について

#### (1) 輸入麦売渡制度

政府により買付・輸入された外国産麦を国内実需者へ売渡す制度については、平成19年4月より、過去の一定期間の国際穀物相場や為替の動向に連動して売渡価格が変動する「相場連動制」による売渡が実施されております。

#### 【輸入麦の政府売渡制度】

価格改定回数	年2回（4月、10月）
改定価格の算定方法	価格改定月の2ヵ月前から遡って6ヵ月間の政府買付価格を加重平均し、マークアップ・港湾諸経費を加算して算出



#### (2) 輸入麦政府売渡価格推移

小麦の国際価格がロシア・ウクライナ情勢を受けて上昇傾向で推移したため、令和4年10月期の政府売渡価格については、令和4年4月期価格から上昇する状況にありましたが、急激な変動の影響を緩和するため、国の緊急措置により据え置きとなりました。また令和5年4月期は、ロシア・ウクライナ情勢により急騰した期間を算定期間から除くことで、本来の上昇幅を抑制した価格となりました。直近では、米国など小麦主産地の作柄が安定していることなどにより価格は下落し、概ねロシアによる軍事進攻前の水準で推移しています。

#### 【政府売渡価格推移】

輸入麦政府売渡価格	令和3年4月期	令和3年10月期	令和4年4月期	令和4年10月期	令和5年4月期	令和5年10月期
(5銘柄加重平均)	51,930	61,820	72,530	72,530	76,750	68,240

※単位：ト/円、税込

## 5. 安全・安心な麦への取り組み

### (1) 目的

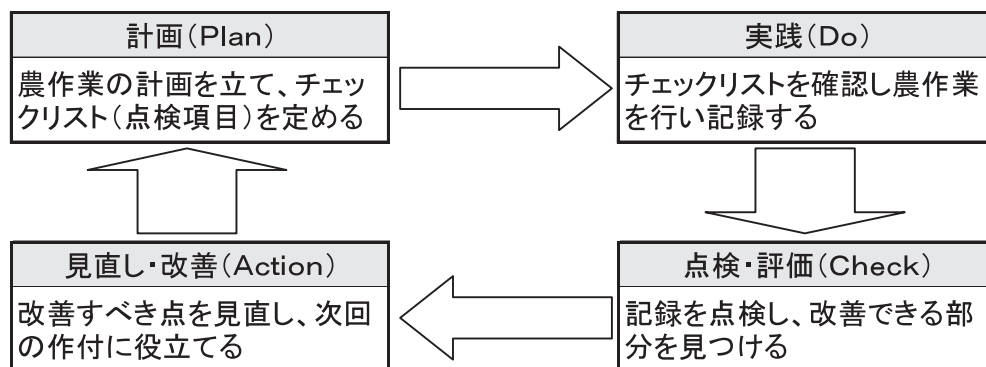
食品の安全と消費者の信頼を確保するため、麦類の生産工程管理、GAP（農業生産工程管理）的手法の更なる周知を徹底することが重要です。

#### ■農作業の生産工程管理（GAP的手法）■

農作業ごとに、安全な農産物を生産するための管理ポイントを整理しまとめたものです。

農業生産の現場において、生産工程ごとに想定される危害とそれに対応したリスク管理措置をリストアップし、リストに従って確実に実施・記録したうえで、より適切な生産方法に見直していくことを繰り返すことがGAP的手法の取り組みです。

#### <PDCAサイクル>



### (2) 麦類における危害要因と対応策等

危害要因	対応及び防止対策など
かび毒	DON検査の実施 ⇒品位等検査前に分析し、暫定基準値以内となった小麦を民間流通麦として販売・流通 <input type="checkbox"/> かび毒汚染防止対策 ・適切な防除の周知徹底 ・赤かび病発生圃場の別収穫及び保管管理
残留農薬	農薬取締法を遵守した生産と食品衛生法に基づく出荷・流通 ⇒ <u>通覚検査(1JA1品種1点)及びポジティブリスト制対応のモニタリング検査の実施</u> <input type="checkbox"/> 基準値以内への生産に向けて ・農薬の適正使用 ・ドリフト対策(周辺圃場<特に水稲作付圃場>への農薬飛散防止) ・農薬使用後の散布器具洗浄の周知徹底
異種穀粒	特に、 <u>そばの混入防止対策</u> ⇒アレルギーの原因となることから、混入防止対策の周知徹底 <input type="checkbox"/> 混入防止対策 ・機械(コンバイン、乾燥機など)清掃の周知徹底 ・施設(サイロ、ベルトコンベヤーなど)清掃の周知徹底
異物	異物(虫、鼠、石、ガラス・金属・プラスチック片など)の混入防止 【特に、 <u>虫の混入発生事例が多くなっており、更なる混入防止対策の周知徹底</u> 】 ⇒食品安全上問題となることから、混入防止対策の周知徹底 <input type="checkbox"/> 混入防止対策 ・収穫・乾燥及び調製工程における選別作業の徹底 ・保管時での現物確認による保管管理の周知徹底及び出荷時での現物確認の周知徹底 ・保管容器、運搬車両、乾燥調製施設、選別機械及び作業者の衛生管理での周知徹底



### (3) 小麦のかび毒 (DON) の規格基準の改定について

小麦に含まれるデオキシニバレノール (DON) については、平成14年に暫定的な基準値として1.1ppmが設定されておりましたが、令和4年4月1日からは食品衛生法 (昭和22年法律第233号) 第13条第1項に基づき、1.0mg/kgを超えて含有するものであってはならない旨の成分規格の基準が新たに設定されました。

### (4) 残留農薬について

食品衛生法の改正により、ポジティブリスト制度が平成18年5月から施行され、全ての農薬などに残留基準 (一律基準を含む) が設定されています。このことにより、食品の成分に係る規格 (残留基準) が定められていないものについて、0.01ppm (1億分の1) という厳しい一律基準が設定されています。

#### 【農薬の飛散による影響】

例えば、ある作物の基準に従った登録農薬が飛散して、隣の圃場に作付けされた収穫直前の小麦に付着した場合、小麦に登録のない農薬成分が0.01ppmを超過して検出されると食品衛生法違反となり、収穫物は出荷停止・回収されることとなります。ポジティブリスト制度の施行から15年以上経過した今でも、このような事故が発生しています。

【ちょっとした不注意が、莫大な費用発生と産地の信用を失墜させる事態に発展します】

### (5) より一層の農薬飛散防止及び農薬適正使用に向けた取り組み

- ① 地域一体となり対策を検討し、みんなで確認を行い、農薬飛散防止に係る意識を一層高めます。
  - I. 隣に他の生産者の圃場がある場合は、生産物の収穫日と農薬の散布予定日を確認します。
  - II. 周りに収穫直前の作物がある場合は、農薬の散布日を変更します。
  - III. 防除対象圃場に隣接したハウスがある場合は、ハウスの側面を閉めてから防除します。
- ② 農薬使用上の注意事項
  - I. ラベル表示を確認し、ラベルに記載された適用内容を確認します。
  - II. 散布できる作物を確認し、使用量、使用時期、使用総回数を守ります。
  - III. 農薬は、整理整頓して保管し、残農薬および空容器を適正に処理します。
- ③ ドリフト防止の注意事項  
散布しようとする作物以外に農薬がかからないよう最善の努力をします。

⇒風の無い(朝夕の風の無い)時を選んで散布  
農薬飛散の最大の要因は風です。

⇒散布機の圧力は適切に  
圧力が高すぎると細かい粒子が発生し、飛散しやすくなります。

⇒適切なノズルを選びましょう  
一般的なノズルは薬液の粒子が小さく、浮遊し飛散もしやすいため、ドリフト低減ノズルに切替えることも効果的です。

⇒散布の位置と方向に注意  
農薬は対象とする作物だけにかかるよう、できるだけ作物の近くから散布します。

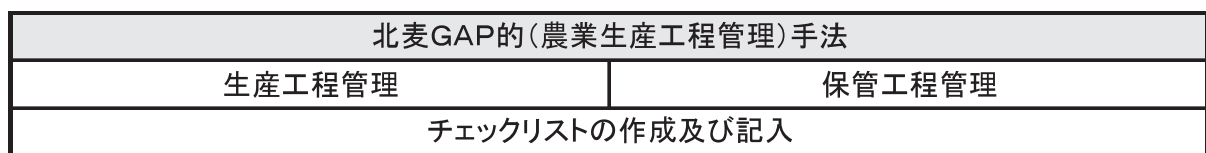
⇒散布量は適切に  
散布量が多くなるほど飛散する場合も増えます。

⇒散布機の洗浄を丁寧に  
前回使用した農薬が残っていると、登録外の農薬が収穫物に残留する危険性があります。

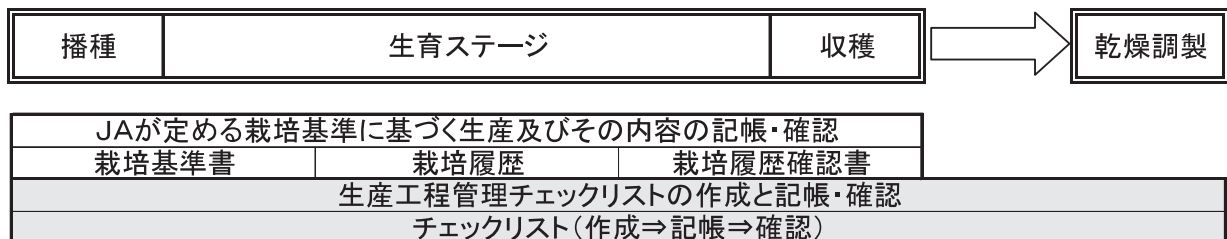
(6) 麦類の安全確保に向けた取組み

	従来の取組み	GAP的手法(農業生産工程管理)導入による取組み	
生産工程管理計画 (北麦GAP的手法)	栽培基準の作成	生産工程管理チェックリストの作成	
	栽培履歴の記帳	生産工程管理チェックリストの記帳	
	栽培履歴の確認	生産工程管理チェックリストの確認	
	残留農薬検査の実施	通常検査	1JA1品種1点実施
		モニタリング検査	ポジティブリスト対応検査
	保管管理使用農薬の残留農薬の確認		
	保管管理使用農薬報告書の提出 (麦類保管倉庫のくん蒸実施報告書の提出)	モニタリング検査 確認検査(実施JA)	ポジティブリスト対応検査
	保管工程管理(保管状況の確認)		

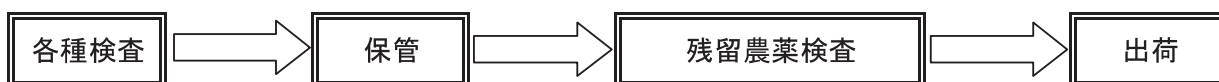
<生産工程管理の取組みイメージ>



【生産工程管理】



【保管工程管理】



民間流通麦として流通するための検査				ポジティブリスト制に対応するための検査	
DON検査	成分検査	品質検査	品位等検査	通常検査	モニタリング検査
品質状況の確認(保管中における保管管理、出荷時の現物確認など)					
生産(保管)工程管理チェックリストの作成と記帳・確認					
チェックリスト(作成⇒記帳⇒確認)					

(7) JAグループ北海道のGAPの取組に対する方針について

一部実需によるGAPの取引ニーズの高まりや、農水省ガイドラインの引き上げなど、GAPをめぐる全国的な機運が高まりつつあることを受け、JAグループ北海道では食の安全安心の更なる強化と農作業事故防止に向けたリスク改善を推進し、第三者が認証するGAP水準を目標に段階的に生産水準を高める等の取組方針を決定しております。畑作物については、麦の生産工程管理（生産者版）と畑作3品（豆、馬鈴しょ、てん菜）を統合した共通のチェックリストを配布しており、小麦については令和2年産より共通チェックリストを利用した生産工程管理を実施しております。

# 【参 考 資 料】

## 1. ランク区分評価基準及び品質評価項目、基準値及び許容値一覧表

### 【ランク区分評価基準】

ランク区分	評 価 基 準		
	基 準 値	許 容 値	そ の 他
A	3つ以上達成	全て達成 (容積重を除く)	
B	2つ達成	全て達成 (容積重を除く)	
C	1つ達成	全て達成 (容積重を除く)	
	2つ以上達成	未達成	
D	全て未達成		
	1つ達成	未達成	
	-	-	雑銘柄麦、異なる銘柄の混合麦

### 【品質評価項目、基準値及び許容値】：小麦及び大麦

#### ■日本めん用：きたほなみ

評 価 項 目	基 準 値	許 容 値
たんぱく	9.7%以上11.3%以下	8.5%以上12.5%以下
灰分	1.60%以下	1.65%以下
容積重	840 g / ℓ 以上	-
フォーリングナンバー	300以上	200以上

※低アミロース品種（きたほなみ）の「たんぱく」の許容値は8.0%～13.0%

#### ■パン・中華めん用：ゆめちから、キタノカオリ、つるきち、春よ恋、ハルユタカ、はるきりり

評 価 項 目	基 準 値	許 容 値
たんぱく	11.5%以上14.0%以下	10.0%以上15.5%以下
灰分	1.75%以下	1.80%以下
容積重	833 g / ℓ 以上	-
フォーリングナンバー	300以上	200以上

※パン・中華麺用品種「ゆめちから」については令和2年産より「たんぱく」許容値の上限が18.0%

#### ■大粒大麦：札育2号

評 価 項 目	基 準 値	許 容 値
容積重	709 g / ℓ 以上	-
細麦率	2.5mm (篩) 下に3.0%以下	-
白度	40以上 基準歩留：55% 農産物検査時から一ヶ月経過したサンプル	37以上
正常粒率	80%以上 (65%歩留時) 1.8mm (篩) 上 (砕粒を除く)	70%以上

## 2. 小麦の生産状況と用途別需要状況

### (1) 小麦の作付面積と生産量推移（全国及び北海道）

		H1	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
全国	面積（千ha）	284	213	213	214	212	212	212	213	220	227	232
	生産量（千ト）	985	852	1004	791	907	765	1037	949	1097	994	1097
北海道	面積（千ha）	130	123	123	123	122	121	121	122	126	131	132
	シェア	46%	58%	58%	57%	58%	57%	57%	57%	57%	58%	57%
	生産量（千ト）	503	551	731	524	608	471	678	630	728	614	719
	シェア	51%	65%	73%	66%	67%	62%	65%	66%	66%	62%	66%

資料：農林水産省「作物統計」（子実のみ）

### (2) 道産小麦品種別の作付面積推移

	H1	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
ホロシニコムギ	38									
タクネコムギ	3									
チホクコムギ	79									
タイセツコムギ										
ホクシン			0	0	0		0		0	0
きたほなみ		93	92	92	88	89	89	89	88	90
きたもえ		0	0	0						
きたさちほ		0	0			0				
キタノカオリ		2	2	2	2	2	1	1	1	1
ゆめちから		13	12	12	13	13	14	15	20	20
つるさち		0	0	0	0	0	0	0	0	0
北見95号							0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハルヒカリ	0									
農林61号	0									
ハルユタカ	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1
春のあけぼの										
春よ恋		13	13	13	14	15	14	13	14	15
はるきらり		2	2	2	2	2	2	3	3	3
はるひので										
その他	0					0			0	0
計	130	123	123	123	122	121	121	122	126	131

※単位：千ha

（資料：北海道生産振興局「麦類・豆類・雑穀便覧」）

※この情報は北海道のオープンデータを改変して利用しています。

※ラウンドの関係により合計が一致しない場合があります。

### 【優良品種決定年次】

年次	品 種 名	年次	品 種 名
昭和49年	ホロシリコムギ、タクネコムギ	平成15年	キタノカオリ
昭和56年	チホクコムギ	平成18年	きたほなみ
昭和60年	ハルユタカ	平成19年	はるきらり
平成2年	タイセツコムギ	平成21年	ゆめちから
平成6年	ホクシン	平成24年	つるきち
平成12年	きたもえ、春よ恋	令和2年	北見95号

## 3. 輸入小麦の実績

### (1) 国別輸入量

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
アメリカ	2,276	2,815	2,370	2,195	2,479	2,265
カナダ	1,742	1,543	1,708	1,674	1,504	1,592
オーストラリア	833	877	805	852	709	688
その他	8	6	7	6	6	6
計	4,859	5,241	4,890	4,727	4,698	4,551

※単位：千ト

(資料：農林水産省)

※ラウンドの関係により合計が一致しない場合があります。

### (2) 年度・銘柄別輸入実績

銘柄	呼称	産地	主な用途	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
DNS	ダークノーザンズプリング	アメリカ	中華めん	1,198	766	760	940	820
HRW	ハードレッドウインター	アメリカ	中華めん	891	879	773	915	799
CW	ウェスタンレッドスプリング	カナダ	パン	1,355	1,523	1,493	1,284	1,385
ASW	オーストラリアスタンダードホワイト	オーストラリア	日本めん	797	723	808	653	632
WW	ウェスタンホワイト	アメリカ	菓子	711	711	654	621	636
PH	プライムハード	オーストラリア	中華めん	80	82	44	57	49
DRM	デュラム	カナダ	パスタ	186	184	178	219	206
その他	—	—	—	24	22	18	11	24
計				5,242	4,890	4,728	4,700	4,551

※単位：千ト

(資料：農林水産省)

※ラウンドの関係により合計が一致しない場合があります。